

明恵上人吉原遺跡 (歓喜寺地区)

吉原遺跡は、有田川町を代表する郷土の偉人である明恵上人（1173～1232年）が生誕したと伝わる場所です。国の史跡に指定されています。明恵上人ゆかりの寺である歓喜寺の西約150mの地点にあり、付近の地名は「上人田」とも呼ばれています。

明恵上人が修行した草庵7カ所と生誕地を加えた8カ所の遺跡は、「明恵上人紀州八所遺跡」と呼ばれています。八所遺跡は、明恵の高弟であった喜海が嘉禎2年（1236年）に明恵の遺徳をしのんで木製の卒塔婆を建てたことに始まります。その後、



吉原遺跡（卒塔婆の高さ 157cm）

木製の卒塔婆が腐ったので、康永3年（1344年）に弁迂という人物が湯浅氏一族を勧進して、石の卒塔婆に建て替えました。現在、7カ所に卒塔婆が現存し、国の史跡に指定されています。

江戸時代後期に出版され、紀伊国の名所や旧跡などをまとめた「紀伊国名所図会」という書物の中には吉原遺跡の挿絵が掲載されています。絵の中心には、水田の中にある「上人誕生古跡」であることを示す卒塔婆が農作業の合間に休憩する人や筆を手にした旅人のような人物とともに描かれています。卒塔婆の背後には木が1本描かれています。これは現在エノキの大木に成長しています。

また、卒塔婆の近くには「上人胎衣塚」と刻まれた石碑があります。胎衣とは胎児を包む胎盤のことです。かつては屋敷地や床下などへ胎盤を埋める風習があり、塚や石碑が建てられて地域の信仰対象になる場合もありました。その他、明恵上人が故郷を思って詠んだ歌の歌碑もあり、明恵上人をしのぶことができる場所となっています。



歓喜寺八幡宮明恵上人誕生古跡（紀伊国名所図会）

広告 町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。